

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3 年 7 月 28 日

事業所名 運動療育センターキートス

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	0		3フロアのスペースを活かし、フロアごとの役割明確にして児童の支援の質を高める
	2 職員の配置数は適切である	4	0	0	・階段に手すりをつけている点 ・手すりやドア ・階段がある施設であるため、階段昇降を自立して行えることが必要となる	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	0	2	支援計画のサイン欄や伝達ノート	情報共有は常に行っているが、迅速に全スタッフに回るような仕組み化が必要
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	0		今回初めてなのでまだしていません 今回が初めてだから
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	3	0		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2	0		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	3	1		参考施設との情報共有は行っているが、外部評価は受けていない
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	3	0		不定期での開催の現状で、今後カテゴリ分けしてスケジュールを組み定期研修を行う予定	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0	保護の活動日誌を当日の事実を明記し、時系列で管理しているため、その内容が計画書にも反映されている	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		3	1		標準化された評価ツールは現在作成及び評価実施中
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	0		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	子どもたちが楽しめるようなイベントなど入れています 0 当日の児童に合わせて、日頃から多く行っている項目ばかりにならないようにスタッフ間で連携を取りながら実施している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1	0		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	0	スタッフが低学年高学年どこにつくかなどを決めています	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	0	伝達ノートやその日気が付いたことは伝えていきます 0 申し送りノートの記載とチェックを徹底して支援の方向性を統一させている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0		
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	0			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	0	0			
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	0			
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	0	保護者の方や、学校などにお問い合わせなどを確認しています 0 事前に月間スケジュールを立案しているため、学校行事及び即自対応がスムーズに行える体制をとっている。		

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	1	3	看護師がいないため医療ケア児童は受け入れていません 受け入れていない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	2	2	学校を卒業した子がまだいない 2 学校卒業している利用者さんがいない 卒業した児童がまだいない	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	0	4		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	0	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0	LINEや送迎時に、保護者の方と状況をお伝えしたり、ご自宅での様子をお聞きしている 気になった姿があるときはその都度連絡や送迎時にお伝えしています 手書きの連絡帳と送迎時に直接コミュニケーションを取ることで共通理解に努めている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	2	2	子どもたちの課題にたいして、の施設での取り組みを通して改善や上手く行ったケースは共有してご助言するようにしている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	4		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0	起こった事実は必ず当日に保護者様にご報告しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	0		
	35	個人情報に十分注意している	4	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0		
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0	4		
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	1	2		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	3	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	0		